

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2015年9月12日（土）、日本語教育学会会議室において企画運営委員による2015年度第5回大会委員会を開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2015年度秋季大会（沖縄大会）準備の進捗状況について

当日の業務体制、運営面の留意事項を確認した。また、遅刻対応について検討し、方針を決定した。同時開催の企画2件につき、準備状況について担当委員による報告があった。

2. 大会委員会企画パネルセッションについて

2016年度春季大会で大会委員会企画パネルセッションのテーマを検討し、承認した。概要・パネリスト候補については次回委員会で継続審議することとした。

3. 査読体制の運用方法等について

今期大会委員会から運用中の査読体制・方針について、実務がより円滑に進められるよう、課題となっていた点について対応策を検討し、決定した。

4. 2016年度以降の大会企画・運営について

2017年度以降の開催地の選定は常任理事会の所掌事項となることとともに、その選定方針および決定状況について報告があった。

◆2015年10月10日（土）、11日（日）、2015年度日本語教育学会秋季大会を沖縄国際大学で琉球大学との共催により開催した。参加者は招待者・関係者を含めて455名であった。

1. 1日目は、開会式に引き続き、四つの会場で7件のパネルセッションが行われた。各パネルとも熱心な発表、討議が行われた。

2. 懇親会は、キャンパス内の厚生会館で行われ、招待者・関係者を含めて136名の参加者があった。

3. 2日目には、五つの会場で36件の口頭発表、七つの会場で41件のポスター発表、二つの会場で5件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。どの会場も盛況であった。

◆2015年10月11日（日）、沖縄国際大学5号館207教室において全委員による2015年度第6回大会委員会を開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2016年度春季大会の企画・運営について

目白大学の池田広子氏・山岸容子氏からのご挨拶に続

き、教室手配や実行委員会体制についての説明があった。

2. 今大会実施状況の中間報告について

委員より、デモンストレーション発表における事前申請のない資料の配布、口頭発表における音響機材の不調などへの対応について報告があった。

3. 2016年度以降の大会企画・運営について

2016年度春季大会では、試行的な取り組みとして、参加費の学生割引・チャレンジ支援委員会による企画の実施、同秋季大会では、大会担当理事を中心に松山の地域性を活かした内容の企画の実施に向けて検討中であるとの報告があった。

4. 2015年度秋季大会発表応募査読について

査読時に査読者よりあげられた特記事項（様式に不備がある要旨や応募者が特定される可能性のある要旨等）を中心に査読についての意見交換を行った。応募者へのフィードバックの要否や今後の対策については、不備の事例を検証し方針を定めることとした。

5. 査読体制の運用方法について

査読体制の運用方法の改善策に関して、企画運営委員による第5回大会委員会での決定事項について全委員向けの説明があった。

6. 大会委員会企画パネルセッションについて（企画運営委員による審議事項）

2016年度春季大会で大会委員会企画パネルセッションの概要・パネリスト候補者等を検討し、大きな方向性について承認した。パネリスト候補者の決定・打診は本企画ワーキンググループにより継続審議のうえ作業を進めることとした。

次回委員会予定：2015年11月28日（土）

（谷部弘子）

● 学会誌委員会

◆2015年11月14日（土）午後1時～5時、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。162号の刊行準備進捗状況、科研費申請についての報告の後、以下のとおり審議が行われた。

1. 163号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼候補の決定。

2. 163号投稿論文（投稿総数25本（研究論文10、調査報告9、実践報告2、研究ノート4）の審査。

3. 165号特集（2016年12月号）のインタビューに関する検討。

4. 168号特集（2017年12月号）の検討時期についての確認。

5. 『日本語教育』論文賞の選考方法についての確認。

6. 学会誌事業の事業再編についての共有。

次回委員会予定：2016年3月5日（土）

（西郡仁朗）

●研究集会委員会

◆研究集会実施報告

1. 2015年度第5回研究集会（関東地区）

日時：2015年8月1日（土）・2日（日）

会場：国際交流基金日本語国際センター

参加人数：131名（会員78名，非会員28名，学生25名）

内容：対話型・体験型セッション（4件），企画セッション（4件），みんなの実践広場（18件）

今年度の実践研究フォーラムも，海外を含め，様々な現場から集い，考え，議論する場になった。初日の「対話型・体験型セッション」は，例年より発題数こそ少なかったが，日本語教育実践とタスクデザイン，作文指導，デリケートなトピックの扱い方，Facebookのコミュニティを活用した支援といった興味深いテーマが，海外，日本語学校，大学等様々な実践現場からの発題で行われ，充実した議論や意見交換，実践体験が行われた。2日目は新たな試みとして，委員企画セッションが行われた。教室におけるモチベーション，海外での教材開発，地域との連携，実践研究の伝え方をテーマに，午前から活発な議論が行われた。

また，昨年度好評だった「みんなの実践広場」を今年度は1日目の午前と2日目の午後に分けて実施したが，どちらの回も，発表者・参加者間で，活発な意見交換が時間をかけて行われた。今年度はポスターセッションとの重なる懸念から「みんなの実践広場」のみを実施したが，アンケートからはポスターセッションを希望する声もあった。「実践広場」は何をめざすものなのか，何ができるのか，発表希望者参加者に示していく必要がある。

今年度はパネルセッションを行わず，参加者全員で，本研究会の振り返り大会を行ったが，発題者・参加者間で，実践研究についての様々な思いを共有し合うことができた。

（佐藤正則）

2. 2015年度第6回研究集会（関西地区）

日時：2015年9月5日（土）13：00-17：30

会場：園田学園女子大学

参加人数：85名（会員53名，一般32名）

内容：講演，研究発表（口頭13件）

講演講師：西尾純二氏（大阪府立大学）「マイナス待遇表現行動の研究の展開と可能性」

今回の講演は，社会言語学の立場からいわゆる敬語や配慮表現とは逆のベクトルを持つ「マイナス待遇表現」という新しい観点での問題が取り上げられた。「対象を低く，悪く扱う表現（行動）」と定義され，地域差・世代差・性差，さらに国の習慣や考え方にも違いがある。表現方法や状況によっては相手を不愉快な気持ちにさせ，文化摩擦を引き起こす原因ともなる。今後の日本語教育

において，会話教育の在り方や新たな語用論的研究への可能性が示唆された。

口頭発表は，ナラティブな教授法の報告・提案，さらに新しい切り口の会話教材の提案，特定の教授法の効果なども取り上げられた。また専門学校での調査，外国語との対照研究などの発表も見られた。

（川上恭子）

3. 2015年度第7回研究集会（四国地区）

日時：2015年10月24日（土）10：30-16：50

会場：香川大学教育学部

参加人数：100名（会員41名，一般59名）

内容：講演，研究発表（口頭15件，ポスター3件）

講演講師：友沢昭江氏（桃山学院大学）「外国にルーツをもつ児童・生徒・学生の教育のあり方ー日本語，母語（継承語），学力の面から考えるー」

今回の研究集会は，北海道から九州まで多くの発表者に恵まれ，午前の開会となった。

昼休みの後，外国にルーツをもつ子どもの教育をテーマに講演がおこなわれ，母語の継承についての話や大阪での事例の紹介があった。今回参加した地元のボランティアの方々は，外国にルーツを持つ子どもの支援をしている方も多く，集住地域の大阪の話はそのまま当てはまらないまでも，いろいろと細かい点で参考になったという意見が寄せられた。

研究発表は，午前・午後の部を合わせて研究発表8件，実践報告10件となり，文法や音声をテーマにしたものから教室活動や学習者支援等，幅広いものとなった。参加者の約6割が非会員で，多くの人の交流の場も兼ねた実り多い研究集会となった。

（轟木靖子）

◆2015年度研究集会予定

・第8回研究集会（東北地区）

2015年11月21日（土），秋田大学

・第9回研究集会（中国地区）

2015年12月27日（日），広島女学院大学

・第10回研究集会（関西地区）

2016年3月12日（土），桃山学院大学

◆2016年度研究集会予定

・第1回研究集会（九州・沖縄地区）

2016年4月23日（土）・24日（日），佐賀大学

発表応募締切：2016年1月20日（水）

・第2回研究集会（中部地区）

2016年6月11日（土），愛知県立大学

発表応募締切：2016年2月12日（金）

・第3回研究集会（北陸地区）

2016年6月26日（日），しいのき迎賓館（金沢市）

発表応募締切：2016年3月1日（火）

- ・第4回研究集会（北海道地区）
2016年7月2日（土），北海道大学国際本部留学生センター
発表応募締切：2016年3月4日（金）
- ・第5回研究集会（関東地区）実践研究フォーラム
2016年8月6日（土）・7日（日），東京外国語大学
「対話型・体験型セッション」
発題応募締切：2016年3月7日（月）
「みんなの実践広場」
出展応募締切：2016年5月9日（月）
- ・第6回研究集会（四国地区）
2016年11月5日（土），高知大学
発表応募締切：2016年8月5日（金）
- ・第7回研究集会（東北地区）
2016年11月下旬予定，東北大学
発表応募締切：2016年8月上旬予定
- ・第8回研究集会（中国地区）
2016年12月予定，山口大学
発表応募締切：2016年9月予定
- ・第9回研究集会（関西地区）
2017年3月上旬予定，大阪YMCA国際専門学校
発表応募締切：2016年11月予定

※例年5～6月に開催しておりました九州・沖縄地区研究集会は、2016年度は4月に開催いたします。発表応募締切も1月と全体に日程が早まっておりますので、発表応募およびご参加予定の方はご注意ください。

※例年9月および3月と年2回開催しておりました関西地区研究集会は、2016年度は9月は開催せず、2017年3月のみの年1回の開催となります。発表応募およびご参加予定の方はご注意ください。

※各地区研究集会のプログラム、発表要旨、発表募集情報等は、日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

◆会議記録

1. 全体委員会

2015年度第2回研究集会全体委員会（2015年10月11日），
沖縄国際大学（秋季大会会場）

- (1) 各地区の報告と予定
- (2) 委員長・副委員長の選出
- (3) 各地区からの課題，検討事項
- (4) 2016年度研究集会応募要項
- (5) 2017年度からの支部活動について

本会議は当日の委員出席数が定足数である1/2以下であったため，後日電磁的方法の再審議により全委員からの書面での回答をもって承認された。委員長は山口涼子

氏（中国地区），副委員長は伊藤美紀氏（北海道地区），佐藤正則氏（関東地区）に決定した。

2. 2015年9月27日に，TKPスター貸会議室九段下（東京都千代田区）で開催された理念体系プロジェクト合同検討会議に各地区代表（または代理者）が出席した。
3. 関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）
 - (1) 2015年度第4回関東地区委員会（2015年10月17日）
 - (2) 2015年度第5回関東地区委員会（2015年11月28日）

◆ 次回委員会予定

1. 全体委員会

2016年度第1回研究集会全体委員会（2016年5月22日），
目白大学（春季大会会場）

2. 地区代表者会議

2016年度地区代表者会議（日時未定）

3. 関東地区委員会

2015年度第6回関東地区委員会（2016年3月予定）

● 教師研修委員会

◆2015年度研修実施報告

1. 夏季集中研修「話し合いの評価」「教室における談話」を捉え直す」

開催日：2015年8月8日（土）・9日（日）2日間連続研修
会場：東京大学駒場キャンパス

WS1「話し合い」を評価するーよりよい合意形成のためー」

講師：柳田直美氏（一橋大学）

研修協力：森本郁代氏（関西学院大学）

参加者：16名

WS2「教室における談話を分析するーどう捉えどう生かすかー」

講師：嶋津百代氏（関西大学）

参加者：40名

2. 反転授業・実践

講師：藤本かおる氏（NPO法人日本語教育研究所，他）

開催日：2015年10月31日（土）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス

参加者：41名

3. 語彙・文法のレベルをコントロールした教材づくりーレベルにあった授業のためにー

講師：松下達彦氏（東京大学）

開催日：2015年11月14日（土）

会場：東京大学駒場キャンパス

参加者：28名

◆2015年度研修予定

1. 教室活動のデザインⅧ

開催日：2016年1月9日（土）・10日（日）

会場：政策研究大学院大学

WS1 (9日) 「タスクを作ろう！-Task Based Language Teaching (TBLT) の知見を活かして-

講師：百濟正和氏 (英国・カーディフ大学)

定員：40名

WS2 (10日) 「聴く力を高める授業のデザイン-理論に基づいた実践のために-

講師：福田倫子氏 (文教大学), 横山紀子氏 (国際交流基金日本語国際センター)

定員：80名

2. 対話で紡ぐデジタル・ストーリーテリング

-語りによるエンパワメントをめざして-

講師：小川明子氏 (名古屋大学)

開催日：2016年3月5日 (土)

会場：早稲田大学早稲田キャンパス

定員：40名

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルや日時、会場等が変更する場合もございます。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

2015年度第3回教師研修委員会 (2015年9月12日)

1. 7月17日：教師研修委員会への執行部説明の報告
2. 2015年度研修実施報告
3. 2015年度研修進捗状況
4. 2016年度研修計画について
5. その他
6. 次回会議予定

◆次回委員会予定

2015年度第4回教師研修委員会 (2015年12月12日)

(宇佐美洋)

◇ 事務局からのお知らせ ◇

●年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

○郵便振込 00140-5-64631

○みずほ銀行新橋支店 (普)130-880757

○現金書留

○クレジットカード支払 (海外在住者のみ受け付けます。事務局会員サービス係 (kaiin@nkg.or.jp) にお問い合わせください)。

●年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々に、 「年度会費の自動引落システム」 をご用意しております。全国の金融機関 (銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等) でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係 (kaiin@nkg.or.jp) までお問合せください。

<年度会費>

○普通会員 10,000円 (年度額)

○賛助会員 一口50,000円 (年度額)

●住所等の変更について

所定の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552 / E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

●学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp